

市民の横顔

FACCE

人生を泳ぐ

マスターズ・スイマー
辻義継さん



■週3回以上はプールへ

昨年、尼崎市で開催された日本スポーツマスターズの水泳50メートル背泳ぎで優勝した辻義継さん。マスターズ世界ランキングでは、200メートル背泳ぎで世界6位にランクされました。

辻さんは、今年で72歳になりますが、今も週3回以上は近くのプールで練習し、選手として審判として、また指導者として全国を駆け回っています。

■水泳が部活から仕事に

辻さんは、中学生のころ、部活を選ぶ際に、水着1枚あれば活動できるという理由から水泳部に入部しました。中学3年生の時には背泳ぎで全国7位になり、その実績が認められ、東京オリンピックに向けて有力選手を集めていた大阪市立桜宮高校へ入学。インターハイでは全国3位になりました。

その後、人との出会いや縁にも助けられ、大阪体育大学を卒業し、母校である桜宮高校などで体育教員を長く務めました。教員を退職後、府の水泳協会や大学などで指導しているうちに、教え子たちから誘われ、マスターズに選手兼監督として出場するようになったそうです。

■マスターズの魅力

近年、審判などで大会運営にも関わるようになり、マスターズの魅力や生涯スポーツの楽しみ方に目覚めたという辻さん。「多くの人にマスターズに参加してほしい」と熱く語ります。

マスターズは、初心者でも出場できるのが魅力で、高齢になつてから泳ぎ始めた人も多く、飛び込みが難しければ水中からのスタートも可能だそうです。

現在、日本人最年長は103歳の女性で、1500メートル自由形の世界記録保持者。彼女が泳ぐと、会場はわれんばかりの拍手に包まれ、生涯スポーツの素晴らしさを感じるそうです。

マスターズには、北島康介さんなど元オリンピック選手のチームが出場することもあります。が、「日ごろの鍛錬がないと、マ

スターズではメダルが取れない」とのこと。多くの教え子の中でも、学生時代に補欠だった選手が練習を重ね、マスターズでメダルを取っている姿がうれしく、励まされるそうです。

■本市に暮らして数十年

30数年前、空気がきれいで子育てに適した環境を求めて家族で移り住んだ河内長野市。水泳を通じた人との縁は地域にも広がり、市の水泳大会でも審判として活躍しています。また、水泳の空き時間には、近隣の高校で守衛を務めることもあるそうです。

「今が一番楽しい」と話す辻さんの笑顔からは、日々の充実ぶりがうかがえるようでした。

辻さんの水泳漬けの毎日はまだまだ続きます。これからもより一層の活躍を応援します。

